１０	１０番　　安　部　　　都　　議員 ①　大規模災害時の対応とロードサービス業者との災害協定について 　昨今では、大規模災害が毎年のように起こっています。地震、台風、噴火、大雨災害などいつ何処で起きるか想定するのはなかなか難しく、災害といつも隣合わせに日々暮らしていることを忘れてはいけません。大規模災害になると多くの死者や怪我人が出ることもこれまで私たちは経験してきました。災害救助で活動される方も救助に入る幹線道路等にがれきや大木などのバリアがあり、「あの時すぐに救助に入れたら」とか「あの医療器具や医薬品がすぐに準備できたら」などさまざまなジレンマに陥った方も少なからずいらっしゃると思います。まず、大規模災害で最優先事項は、人命救助をすることです。さらに救命は時間との闘いで一分一秒を争います。どんなに優れた医師、看護師、救急救命士、消防士がいても、現場にたどり着くことが出来なかったら、大切な命や財産は守れなくなります。そこで、その最優先事項の救命に極めて重要な役割を果たすのが「道路啓開」です。本町の道路啓開についての重要性と災害対応に当たる専門性を持つ人たちとの連携強化についてどのような認識であるのかお伺いします。 （１）災害時における「道路啓開」ついての見解を問う。また、本町での災害時の対応はどのように考えるのか聞く。 （２）本町で災害が起きた際、人命救助の体制やがれき撤去の体制はどのように望むのか伺う。 （３）人命救助には、地上でいち早く走れる状況を作ることが優先だが、その高度な専門性を持つロードサービス業者との連携と災害協定についての考えを伺う。 （４）現在、長崎県内で開業しているロードサービス業者の数、所在地、装備品の把握はしているのか伺う。 ②　インクルーシブ防災地域づくりについて 　沖縄市では、障がい当事者と中学生が共に地域防災とインクルーシブ教育をつなぐ取組として「地域を歩く避難訓練支援実習」として避難訓練を実施しています。令和７年度は、中学生を含む住民等が７０名参加されたようです。実際に１２００ｍの避難経路を共に歩くことで、互いの気付きや机上では気付きにくいさまざまな課題が明らかになったようです。そこで、本町も福祉教育と防災避難訓練を通して平時から一緒に考え、一緒に備える安心安全な「インクルーシブ防災地域づくり」を実施する考えはないか伺う。